

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
1 (著書) 『ソーシャルワークと生活 支援方法のトレーニング —利用者参加へのコンピ ュータ支援—』	共著	2005年 8月	中央法規出版	著書全体の概要:本書は、ソーシャルワークにおいて 利用者の参加を促進する生活支援のスキルを、エコシ ステム構想に基づいて開発されたコンピュータ支援ツ ールを用いてトレーニングする方法を紹介したものであ る。(総ページ数:192頁)(著書全体の著者名:太田義 弘編、石倉宏和、岩井義樹、梅木真寿郎、川内麻美、 長澤真由子、中村和彦、中村佐織、西内章、西梅幸 治、野澤正子、樋下田邦子、丸山裕子、溝渕淳、安井 理夫、山口真里)担当部分の概要:「生活支援への視 野」(第1章4節)において利用者の複雑で固有な生活 をエコシステム視座からとらえることにより、生活の全体 像を理解しコンピテンスを把握するというエコシステム 構想における生活理解の方法について述べた。(担当 ページ:pp.18-23、単著)
2 (著書) 『相談援助のための福祉 実習ハンドブック』	共著	2008年 6月	ミネルヴァ書房	著書全体の概要:本書は相談援助のための実習にお ける事前・実習中・事後の学習方法や種別ごとの実習 モデル、実習までの手続きやマナーなどを具体的に記 したものである。(総ページ:286頁)(著書全体の著者: 関西福祉科学大学社会福祉実習教育モデル研究会 編、塚谷富美子、津田耕一、遠藤和佳子、橋本有理 子、山戸隆也、長澤真由子ほか 41名)担当部分の概 要:「巡回指導の意義と進め方」(第5章4節)では実習 巡回の目的や進め方を通して巡回指導の意義につい て述べた(担当ページ: pp.109-111、単著)。また、「よ く起こりがちなトラブル事例」(第9章、事例3・事例8) においては実習中の遅刻と個人情報に関するトラブル について、問題点や対応方法、留意点などを整理し た。(担当ページ:pp.228-229、pp235-236、単著)
3 (著書) 『ソーシャルワーク実践方 法と支援科学—理論・方 法・支援ツール・生活支 援過程—』	共著	2009年 3月	相川書房	著書全体の概要:本書は、理論と実践の乖離やミクロと マクロの不連続性の克服あるいは制度・政策と方法・技 術のフィードバックなどの課題に対して、エコシステム 構想を含めた具体的方法を示したものである。(総ペ ージ:270頁)(著書全体の著者:太田義弘編、溝渕 淳、長澤真由子、西内章、安井理夫、山口真里、西梅 幸治、丸山裕子、伊藤佳代子、小柴住まゆこ、菊池信 子、中村佐織、加藤由衣、河野高志、梅木真寿郎) 担当部分の概要:「ソーシャルワークの視野と発想」に おいてソーシャルワークの問題解決における生活全体 の理解の意義とその理論的方法について述べた。(担 当ページ pp.23-33、単著)
4 (著書) 『ソーシャルワーカー教育 シリーズ② ソーシャルワ ークの理論と方法 I』	共著	2010年 3月	株式会社みらい	著書全体の概要:本書は新しい社会福祉士養成課程 における相談援助の科目に対応したソーシャルワーカー 教育を目的としたテキストである。(総ページ:173 頁)(著書全体の著者:相澤譲治監修・津田耕一編、成 清敦子、長澤真由子、小島章吾、片山弘紀、綾部貴 子、橋本有里子、遠藤和佳子)担当部分の概要:「第2 章ソーシャルワークの理論」においてソーシャルワーク 実践の基盤となるシステム理論、生態学的視座などに ついて述べた。(担当ページ pp.31-44、単著)
5 (論文) 「ソーシャルワークにおけ る生活の質の概念化」	単著	2006年 3月	龍谷大学大学院社会学研究 科研究紀要編集委員会編 『龍谷大学大学院研究紀要 社会学・社会福祉学』第 13 号 pp.93-110	論文全体の概要:本論文では、ロートン(Lawton M.P.) による生活の質概念のキーワード、①多次元的視点、 ②人・環境システム、③時間性、④評価、⑤主観的基 準による評価、⑥客観的基準による評価、の 6 点を中 心に生活の質の概念を整理・考察し、ソーシャルワーク における生活の質の概念化を行った。(総ページ:18 頁)

